

経営比較分析表（平成29年度決算）

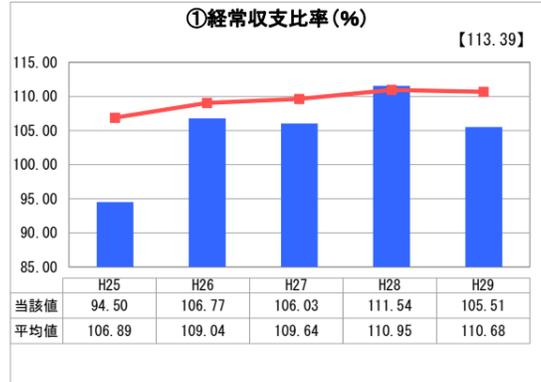
埼玉県 三芳町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.80	99.63	2,133	

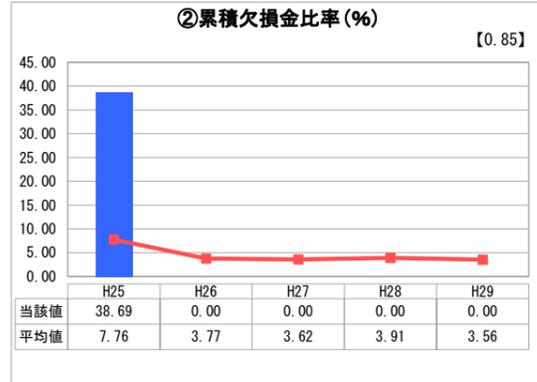
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,404	15.33	2,505.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
38,244	15.30	2,499.61

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

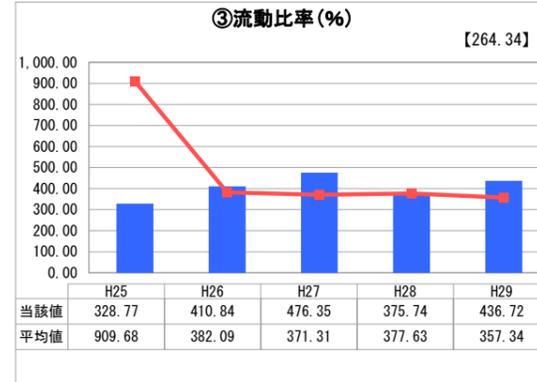
1. 経営の健全性・効率性



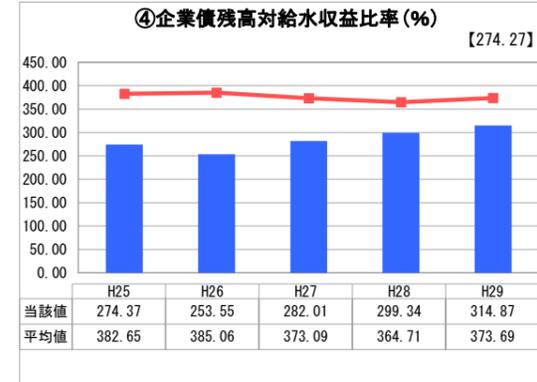
「経常損益」



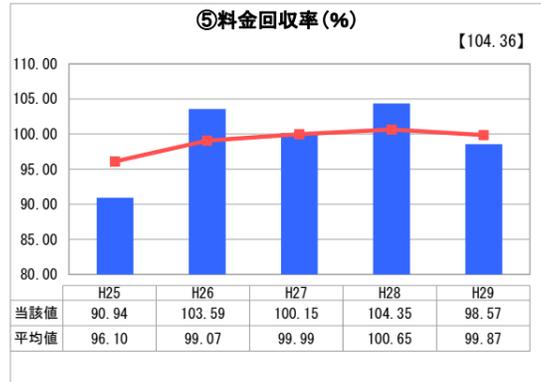
「累積欠損」



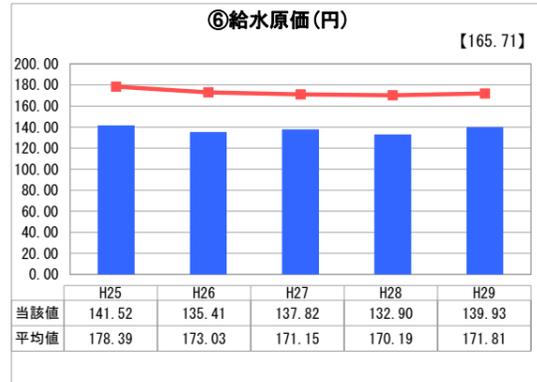
「支払能力」



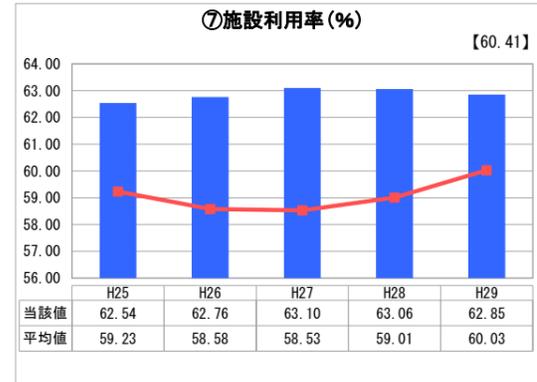
「債務残高」



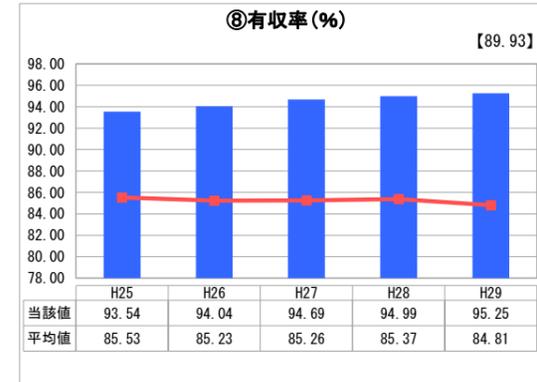
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

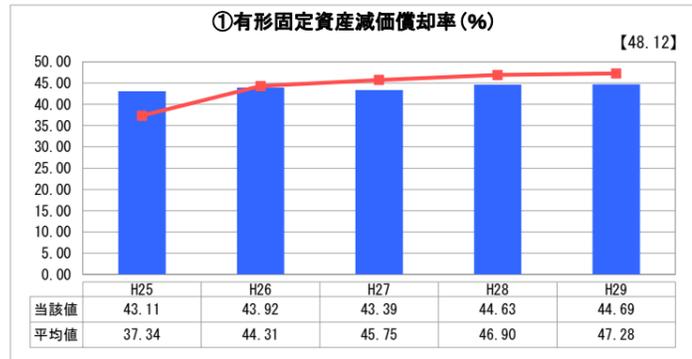


「施設の効率性」

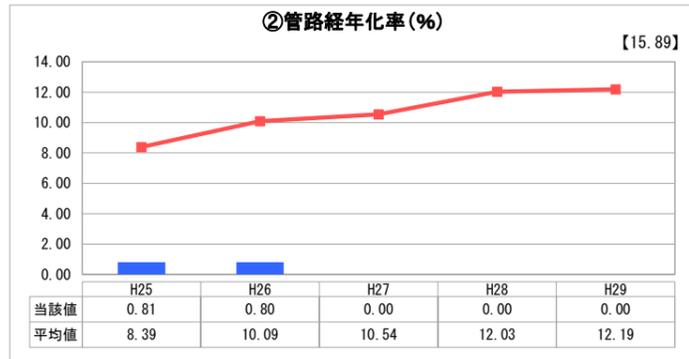


「供給した配水量の効率性」

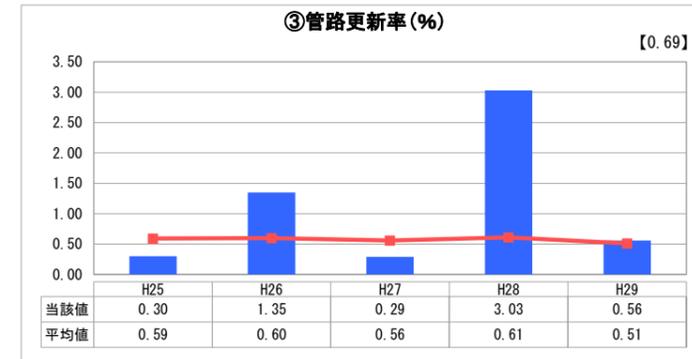
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【健全性】
「給水原価」については、経常費用の増加により数値が上昇した。「料金回収率」及び、「経常収支比率」については昨年より数値が下がり、類似団体との比較においても低い数値となった。しかしながら、「経常収支比率」は、昨年同様、黒字を維持しており、「累積欠損金比率」についても数値は0%で平成26年度以降、欠損金はない。また、「流動比率」については400%を超える数値であることから、昨年に引き続き、高い短期債務支払い能力を保持し、現状、経営の健全性は維持されている。

「企業債残高対給水収益比率」については、数値が上昇している。これは企業債による施設整備資金確保のためであり、施設の更新は継続しなければならないため、この数値は今後も上昇傾向にある。しかしながら、企業債は一般民間企業における社債及び長期借入金に当たるものであるから、将来負担の軽減を考慮し、今後は企業債の割合を減らしても施設整備資金の確保ができるよう、費用縮減に努めることが必要と考える。

【効率性】
施設利用率、有収率は類似団体の平均値を上回り、効率的な施設利用により安定給水を行っている。

2. 老朽化の状況について

現状では、有形固定資産のうち法定耐用年数を経過した資産は類似団体と比較しても多くない。しかしながら、一部の地域において法定耐用年数を10年以上残しながら腐食による漏水被害があった。この地域は、液状化が予測されている地域でもあるため更新時期を早め、平成36年度までの計画で配水管の更新を進めている。

また、配水管以外の資産としては浄水場の浄水・配水施設ならびに電気設備である中央監視設備の更新も完了し、今後においては非常用自家発電設備の更新を平成31・32年度の2カ年で更新を進めていく。

全体総括

健全性・効率性において、各指標を類似団体と比較してみると、固定資産除却費の増により経常収支比率は低い数値となっているが、それ以外の数値はおおむね健全経営を保っていると言える。

老朽化の状況については、有形固定資産減価償却率や管路経年化率、管路更新率共に良好な水準にあると言える。

しかし、施設整備や管路更新など、更新投資は今後も増える見込みであり、水道事業を取り巻く経営環境が厳しさを増すなかで、サービスの安定的継続提供を行うために将来に向けて一層の経営健全化に努めていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。